

日本語教室におけるボランティア活動の取組事例

1 活動の目的と役割

日本語教室では、外国籍生徒が学校生活を円滑に送り、学習への自信を深められるよう、教職員とボランティアが連携して以下の支援を行っています。

- ・学習支援： 日本語（ひらがな・カタカナ・語彙等）の習得に加え、主要教科（数学・理科・国語）の基礎的な学習フォロー。
- ・生活支援： 校内外での生活習慣やマナーの習得を促し、日本の学校文化への適応をサポート。
- ・心の居場所づくり： 生徒の困り感に寄り添い、校内の「もう一つの安心できる居場所」としての機能を提供。

2 ボランティアによる具体的な支援内容

ボランティアは、教科担当教師が作成したワークシートや資料に基づき、個々の生徒の理解度に合わせたきめ細やかな指導を分担しています。

- ・教科指導の補助： 数学の計算（九九、四則演算、高校入試の基礎問題）や、理科の用語理解、国語（小学校漢字、教科書の音読と意味理解）のサポート。
- ・教材の活用： 通常の授業プリントに加え、生徒の習熟度に応じて、既存の学習サイトやデージー教科書（音声付き教科書）等を用いた個別指導を実施。
- ・進路・検定への対応： 生徒の希望や受験に必要な内容に応じて、柔軟に学習内容を調整。

3 活動体制（令和8年度 予定）

現在、3名のボランティアが来校し、教育活動を支えています。

4 教員との連携・引継ぎシステム

質の高い支援を継続するため、「日本語学習指導来室カード」と「学習支援連絡簿」を活用した情報共有を徹底しています。

- (1)指導内容の確認： 教科担当が記入した来室カードにより、その時間の具体的な学習目標（取り組むページやプリント等）を把握。
- (2)活動記録の作成： 支援終了後、ボランティアまたは担当教員が「学習支援連絡簿」に、本時の様子や学習内容を具体的に記入。
- (3)継続性の確保： 記入された記録は、次回の担当者（教員・ボランティア）が確認し、一貫性のある指導へと繋げる。

5 長期休業中の支援

通常の授業時間以外にも、サマースクールやウインタースクール等を通じて、継続的な学習機会を提供しています。

- ・サマースクール・クラス： 夏季休業中の学習サポート。
- ・ウインタースクール： 冬季休業中の学習サポートに加え、日本の伝統文化である「書き初め指導」などを実施。

